

雲仙普賢岳噴火記録の今昔

ー噴火の脅威と災害の実態ー

地形模型からみる「島原大変・肥後迷惑」（江戸時代）と平成新山。
100冊近い新聞スクラップを作った地学の専門家から見た平成の大噴火と
現在をお話いただきます。



日時

令和6年

10月20日（日曜日）13:30～15:00

場所

県立長崎図書館郷土資料センター 研修室
(長崎市立山1丁目1-51)

講師

川原 和博 氏 コーディネーター
本馬 貞夫 氏

講師紹介

長崎北高校地学部で西村暉希先生の指導を受け、鹿児島大学理学部、ついで新潟大学大学院に学ぶ。西村門下からは、百武彗星発見者の百武裕司さんらの人材を輩出している。長崎帰郷後、高等学校に奉職し、対馬高・長崎南高・長崎西高などに勤めた。

<業績>

・地学の専門家が製作した【38基の地形模型】

作り方は知っているが、誰もできない地形模型。長崎、島原半島、普賢岳、対馬、阿蘇、桜島、富士山、新島などが国内外の資料館に保存され、このたび、多くの地形模型が島原の「平成新山ネイチャーセンター」に寄贈された。

・レポート「火山地形模型の教材化」（2009年、長崎県高等学校教育研究会理科部会「理科会誌」第48号）ほか



島原半島 2009年（平成21年）1月15日
5万分の1 個人所蔵（寺井邦久氏）

お申込み

郷土資料センターカウンター、電話にて（TEL 095-826-5257）
または右の二次元コードからも受付いたします（期間：9月30日～10月18日）

